

泣いた！笑った！食いしん坊お
デブなアレルギーっ子とママ

たけむらさおり

この本を書こうと思ったのは・・・

2009年2月10日。

息子、通称、空びよんは誕生しました。

待望の息子。

大変だったけど、空びよんを囲んでの楽しい生活。

しかし、生後2カ月。生活は激変します。

久しぶりの家族の外出で食べたクレープ。

その夜、私は乳腺炎を起こします。

次の日、その母乳を満足気のんでいた空びよんの全身に発疹が・・・。

もしかしてアレルギー??

そんな言葉が頭をよぎります。

一過性のものかも～。

しばらくして発疹がなくなると思ったら、体の発疹はなくなったけど、顔の発疹はなくならない。

服に顔をこすりつけ、痒がる空びよん。

病院にいくと、医師から

「アレルギーかもね。小さくて検査できないから、何を食べて出たのか?どんな時に悪化したのか?とか記録しておくといいよ。」

とアドバイスされ、処方されたステロイド軟膏剤ロコイド。

塗ると確かに良くなるけど、塗るのをやめるとまた出てくる。

いたちごっこだ!!

痒がる姿は変わらない。

悩んで、評判の皮膚科へ。そこで出されたのも、ステロイドのmix軟膏。それに加えて包帯でぐるぐる巻き。

グルグル巻きの姿は可愛かったけど、前回の記憶が残って好きになれなかったステロイドと言う薬。

悪い薬ではなんだろうけど・・・。

いたちごっこになるのは嫌だ!!

だから、そこで脱ステロイドを決意!

でもそれって、実は・・・一般常識から外れていることだったようで、非難の嵐の渦中の人になってしまった私。

治療の選択は自由でしょと思っても、予防接種に行けば病院の医師に
「なんでステロイドを使わないの？」

と言われ・・・。

道行く人が空ぴょんに笑いかけてくれるたびに

「そのお顔、可哀相。病院に行っているの？」

と言われ・・・。

心が折れそうになる事もありました。

自然治癒力を高めるために何ができるのか？！

私ができることは？！

そんなことを調べていくうちに出会った、アロマテラピーやホメオパシーなどの自然療法と言われる数々。

アレルギー物質の母乳からの移行を減らすために、通ったベジ料理教室。

毎週、情報を求めて様々なところに出かけました。

生後8カ月で職場復帰をする関係で、生後6カ月から保育園探し。

そこで言われたのは

「アレルギーがはっきりしないと受けられません。」

ということ。

そのため、アレルギー検査を受けることに。通ってた病院に相談すると

「血管が細いから、採血できないし・・・。大学病院へ紹介状を書いてあげるよ。」

と言われ、大学病院に毎回通うのは待ち時間も長いし・・・遠いし・・・と、近くでアレルギー検査をしてくれるところがないか？！と病院探しをはじめます。

病院の検索サイトで、昔、一緒に働いていた医師が開業していることを知り、相談。そこでアレルギー検査をうけることになりました。

出た結果は、卵：陽性、乳製品：陽性、小麦：陽性

ショックでした。

医療者ですが、この事実は受け入れがたいものでした。

そしてダブルパンチな出来事が！

その結果をもって保育園に行くと

「そんなアレルギーのある子は入園をお断りします。」

との対応でした。

お先真っ暗！

それと共に沸いてくるアレルギーっ子は保育園に入れないの？！という怒り。

区へ話にいきましたが、

認可保育園の話ではないので取り合ってもらえず・・・。

いくつかの保育園をあたり、やっと認可外の保育園に入れることになりました。

1歳の節分の時に、節分豆を一つ分食べさせ咳き込み。

もう一つ分食べても咳き込み・・・。

もしや？！と思って、採血をすると、大豆が陽性に。

何を食べさせたらいいのかしら？？と思う母の心配をよそに

白米！命！の空びょん。

体重もアレルギーっ子には考えられないほどおデブ。

空びょんの頭の中には

「食べる」

という文字しかない様子。

病院に行っても

「アレルギーの子はやせっぽちが多いけど、大丈夫だね。」

と医師に言われ、母は苦笑い。

空びょんのアレルギーを通して、笑ったり泣いたり繰り返す。

いろいろ勉強したし考えた。

アレルギーに悩むママ。

”もしかしたらアレルギーかも？！この子”と思って不安な日々を送っているママ。

アレルギーは、もしかしたらあなたに幸せを運んでくれるものなのかもしれないよ。

そんな空びょんと私の成長記録。

そして、私が出会った様々な治療法の数々。

それが皆様の力になれば・・・と思います。